

(社)日本原子力学会
第3回倫理委員会議事要旨

日時 H14.4.18(木)13:30~16:40
場所 日本原子力学会会議室
出席者 西原、宅間、班目、安藤、北村、杉本、鈴木、中安、矢野、大和の各委員
(10名)

配付資料

- 資料3-1 第2回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料3-2 倫理委員会運営申し合わせ
- 資料3-3 倫理規程に関するアンケート結果
- 資料3-4 倫理委員会の広報と問題点の整理
- 資料3-5 倫理規程に対するコメント
(西原、安藤、北村、杉本、宅間、中安、班目、矢野)
- 参考資料3-1 原子力学会としての広報、情報伝達の基本原則
- 参考資料3-2 わが国における原子力技術界の倫理とその背景
(機械学会誌抜刷、西原)
- 参考資料3-3 技術者倫理の諸課題 - 日本原子力学会倫理規程制定の過程から -
(E A J Information、西原)

議事

1. 資料3-1に基づき前回議事要旨を確認した。
2. 鈴木委員から資料3-4、参考資料3-1の説明があり、これに基づき倫理委員会からの情報伝達、広報のあり方について意見交換を行った。委員会情報については原則公開であることを再確認した。この場合の公開とは、審議中のものやプライバシーに関わるものは含まないこと、したがって「何でも公開」ではないことを確認した。ホームページは委員会の責任で充実できることから、広報という点ではホームページ活用を考えるととした。現在のホームページは「委員会として積極的に広報したいもの」というよりは、倫理規程制定の過程での意見提出者からの強い要望で「載せざるを得ないもの」ということで作られており、その構成を含めて鈴木委員、班目幹事で次回までに見直すこととした。なお関連して、学会の性格が仲良しクラブではなく技術者協会として外部に責任ある存在に変容してきていることの認識を会員に訴えるべきとの意見があった。
3. 資料3-3に基づき、安藤委員から春の年会で実施した倫理規程に関するアンケート結果の説明があった。倫理規程を知っている者が3/4であり、学会は倫理規程の浸透に努力すべきという回答が多いなど、比較的前向きの結果である。しかし1200枚配布したのに回答者数は42人に過ぎず、また回答者は関心のある者に偏っていると考えられることから、委員会としてはさらに規程の浸透に努力することとした。原子力学会の倫理規程はむしろ学会外で知られていること、規程があることを誇りとしている会員もいることなどの情報交換があった。この結果は安藤委員が少し整理した形とし、連絡先のお礼には学会から協力へのお礼とともにそれを送付することとした。なお、

今後メールで依頼した上での web 上でのアンケートなども検討することとした。

- 4 . 資料 3 - 5 に基づき、コメントを提出した各委員からその説明があった。初めに西原委員長から、規程改訂努力は無限に続くものであるが今期の委員会で一応のまとめをするよう工程作りとその遵守の必要性の指摘があり、了承された。また、「前文」、「憲章」、「行動の手引」、さらに今後計画されている「事例集」も含め、全体構成をどうするか
の吟味が必要との指摘についても検討していくこととした。各委員のコメントについて、次回までに全体構成の問題、条文ごとの問題、その他の問題に分けて班目幹事のほうで整理し、順次検討をすることにした。
- 5 . 宅間副委員長より、NS ネットのピアレビューなどで出てきた倫理に関する知見や米国のこの関係の現状調査結果について 6 月には紹介してもらえることが報告された。
- 6 . 次回は 6 月 1 0 日 (月) 1 3 : 3 0 ~ で、議題は (1) ホームページによる広報のあり方、(2) 倫理規程見直し、(3) NS ネットからの活動紹介、(4) その他、とすることとした。